



IFALPA の訓練に対する取り組み— IPTS 開催

「エアラインパイロットの訓練」について考える-3

IFALPA HUPER 委員会では 2010 年 10 月 25 日から 5 日間の日程を組み IPTS (IFALPA PILOT Training Standard) を開催しました。

このシリーズでは「エアラインパイロットの訓練について考えるのシリーズ」として、IFALPA の考える「The Future of Flight Training (将来の乗員訓練)」第3部をお送りいたします。

5.教育の考え方

訓練生の能力を最大限に引き出す教育課程を作るにあたって、“Training”訓練（反応過程の養成）と“Education”教育（エアマンシップの熟成）の違いを正確に見極めなければならない。なぜならばプロフェッショナルとはこの二つの相互作用によって形付けられるからである。技倆とは、求められる一定度の能力が達成されていることと考えられるが、プロのパイロットに求められるものはそれ以上のものであることを忘れてはいけない。訓練生に教えなければならないのは、物事を側面からも見られる幅の広い考え方であって、それが訓練生を先見性のあるエアラインパイロットに育てる。

Basic flying skills

基本的な能力である Basic flying skills はすべての土台となるものであって、パイロット人生生涯に渡っての源になるものである。重大な航空機事故になっていたような事態を、真のエアマンシップとパイロットスキルがそうさせなかったことは歴史が物語っている。

そのため訓練の初期過程は、Basic flying skills を身につけるものとして重点を置くべきである。訓練の初期過程は単発機を VFR にて行う必要がある。また訓練では飛行包囲線図を理解するために、エアロバティックの実施可能な機体で行うべきで、さらに Glider（エンジンを止めての滑空）は訓練生にとってとても有用であると考ええる。

Intermediate Training

エアラインパイロットにとってモニター能力はとても重要である。訓練における第二の課程では2マンクルー編成の下、VFR と IFR の状況で行うべきである。それは2マンクルーでのオペレーションの考え方を早期に理解できることと、Pilot Not Flying (PNF) または Pilot Monitoring (PM) として、状況認識能力と コミュニケーションスキルを向上させるのに役立つ。

Advanced Training

この課程においては、Automation がエアラインの運航にとって重要なスキルであるため、Auto-Pilot System のコンセプトの導入がなされるべきである。初期課程においても Automation を理解し、最大限に活用できる能力を取り入れるべきである。

その他の訓練

従来の科目の他に訓練に必要な科目として、SMS (Safety Management Systems)、航空医学の知識、ATC システム、航空の歴史がある。Non-technical Skills として、CRM (Crew Resource Management)、TEM(threat and error management)やその他の適切な内容も、訓練の全体的な中身として必要である。

6.どのように教えるべきか？

集中できる環境での訓練

訓練結果を最大のものとするために、訓練環境をどうすべきか考えなければならない。高品質な設備や環境は効果的な訓練を実施させることができる。集中的な訓練環境は訓練生が生活すること、食事、睡眠、飛ぶことに対する熱望を持たせることのできる究極の方法である。このことは訓練生を他の事に気をそらせないようにするだけでなく、訓練同期による hangar flying (ハンガートークや地上での模擬練習) を可能にし訓練にとって有益である。

訓練機器

CBT (computer based training)のような訓練機器を使用した地上座学形式での教育と、教官による個々の訓練生への指導は、各訓練生の訓練進捗度を適切なものにするために必要であり、そのようなカリキュラムを訓練に含めるべきである。

柔軟なカリキュラム

カリキュラムは“one size fits all” (ひとつのものがすべてに当てはまる) というものにすべきではない。カリキュラムは訓練生と教官が高いレベルのエアラインパイロットを育てる訓練内容に上手にかみ合うような柔軟性が必要であり、訓練内容の継続的な評価も必要である。

教官の資質

高品質な訓練を実施するには、高い能力の教官を初期課程に配置するべきである。高品質で、高いモチベーションのある教官は訓練生に対し、効果的に高い技倆を付与することができる。教官は正式な教官任用の訓練を終えており、その教官の選抜に当たっては、会社が一方的に決めるのではなく、同僚パイロットからの意見を取り入れた選考が行われるべきである。教官任用には初期投資が必要であるが、長い期間に渡って教官手当を教官に支払うことはもっと訓練に影響力がある。